

会 議 録

1 会議名

平成 31 年度第 1 回高土区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 第 6 次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について（公開）

(2) 平成 31 年度のスケジュールについて（公開）

① 地域活動支援事業 採択決定までのスケジュール

② 年間スケジュール

3 開催日時

平成 31 年 4 月 17 日（水） 午後 6 時 30 分から午後 7 時 40 分まで

4 開催場所

高土地区公民館 2 階 中会議室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：青木正紘（副会長）、飯野憲静（会長）、飯野正美、金子和博、小林トシ子
建入一夫、日向こずえ、細谷八重子、横川英男、横山とも子（欠席 2 人）
- ・ 行政改革推進課：大瀧課長、佐野主任
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【田中主事】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【飯野会長】

- ・ 挨拶

【田中主事】

・上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【飯野会長】

会議録の確認：横山委員

次第 3 議題「(1) 第 6 次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について」に入る。この件は前年度第 9 回地域協議会にて事務局から概要説明があったものである。

行政改革推進課より説明を求める。

【行政改革推進課 大瀧課長】

・説明

【飯野会長】

今の説明に質疑を求める。

【横川委員】

行政の自己評価とは、行政だけで自己評価しているのか、それとも他の人員も入ったの評価なのか。

【行政改革推進課 大瀧課長】

業務内容等を各担当課内で自己評価した後、行政改革推進課で更に評価し、最終的に市長に全ての評価結果を諮っているため、行政のみで評価している。一方で第 6 次行政改革推進計画では、パブリックコメント制度を利用して、素案をホームページや各総合事務所等で掲示し、市民の声を聞くことで案を固めている。そのため全てが行政内部での議論ということではない。

【横川委員】

歳入・歳出の不均衡について、「毎年度発生する収支不足額を財政調整基金から繰越金で補てん」とあるが、財政調整基金の残額と今度どのように対応していくつもりか教えてほしい。また、今後も財政調整基金での補てんを続けた場合、いつ財政調整基金はなくなってしまうのか。

【行政改革推進課 大瀧課長】

財政調整基金は、市の貯金にあたるものである。災害や除雪費等の備えとして基金という形で管理している。金額的には約 100 億円であり、巨額に感じるかもしれないが、上越市の予算規模は約 2,000 億円である。そのため、単年度で 2,000 億円支出することを考えると、財政調整基金は予算規模の 5 パーセント程度になる。財政計画で

は、収支不足が数十億円規模で発生する年が推定され、現在の資金運用で何も見直しをかけない場合、数年で財政調整基金がなくなってしまう可能性もある。そうならないために行政改革推進課という部署を設け、取り組んでいる状況である。また行政サービスが急に不安定にならないよう、まずは住民生活を大切にとの視点で常に見直しをかけている。

【横川委員】

例えば、財政調整基金から 20 億円を使用した後、増やす手立てはあるのか。家庭に置き換えると貯金の仕方であるが、市としてはどの様に考えているのか。

【行政改革推進課 大瀧課長】

歳入確保の手段として、市町村は大きな事業を行う際に国や県の補助を受けることが出来る。そのため、大きな事業を行う際は国や県の補助を活用することで基金を増額している。また税源涵養^{かんよう}として、^{かんよう} 税金を増やすことも大切であると考えている。地域経済を活性化させ様々な企業の利益が出た場合、企業からの税金が増える。その他、個人を含め経済が潤い生活が豊かになった場合、個人が納める税金も増えてくる。税金が増えることにより様々な行政サービスの向上や維持に使用することができ、また基金に充てることも出来る。そのため、市の取組として、地域経済の活性化や観光交流人口の拡大を行っている。様々な取組により基金を増やし、行政サービスの低下を招かないように取組を進めている。人口減少や少子高齢化の進行に対する様々な政策を展開する為にも、財政調整基金や税金・財源の確保が大切であると考えている。

【飯野 正美委員】

100 万人観桜会は、上越市としてはどの程度の経済効果があるのか。

【行政改革推進課 大瀧課長】

非常に難しい質問であり、経済効果がどの程度かを算出することは難しい。億単位の話のため大まかな部分もあるが、40 億円程度であったと記憶している。遠方から集客があり、市内で飲食し、宿泊することで利益が発生する。また車を利用して来た場合はガソリンを給油し、帰りに軽食や飲み物を購入することもある。一概に経済効果を試算する術はないため、おおよその金額ではある。

【飯野会長】

資料では上越市の人口が 20 万人から、25 年後には 14 万人になると推定されている。しかし自分の考えとしては 14 万人ではなく、10 万人程度になってしまう様に考えて

いる。高士小学校では今年度の新入生は 5 人であった。自分たちの時代は 60 人から 70 人程度の新入生がいたが、現在は大幅に減り、約 10 分の 1 になっている。10 年後であれば 14 万人程度の人口がいるように思うが、25 年度には更に減ってしまうと思っている。今年度は外国人が入りやすくなったため、観測的には多少入ってきているかもしれないが、上越市でも中心部とそれ以外の地域では感覚的に違うように思う。

【行政改革推進課 大瀧課長】

人口減少については、確かに推定の数字である。人口の推計方法には様々な方法があるが、過去の人口の増加・減少傾向を当市に当てはめて導き出しているため、飯野会長の肌感覚と推計では感覚が合わないことは仕方がないと思っている。何もせずに手を拱こまねいていると 14 万人より人口が減少することが考えられる。しかし 19 万人を基準として考え、社会動態や人口動態、出生数・死亡数の差で人口が増減することが一番の理由である。人口減少や少子高齢化の進行に対し、手を拱こまねいているだけではなく、政策を展開し 14 万人を維持すべきと考えている。

【飯野会長】

最初から低い数字を上げるのではなく、希望的な数字を打ち出していると理解した。

【行政改革推進課 大瀧課長】

最悪の場合と上手くいった場合があるが、14 万人という数字は、何もしない最悪の場合と現状を考慮した場合の中間と考えている。ただ、何もしない訳でもなく、様々な意見等も考慮し人口推計を精査したいと考えている。

【青木副会長】

「基本方策 2 歳入確保の推進」についてである。自分は昨年まで町内会長を 6 年間勤めたが、その間市長から大変な状況であるとの話は何度も聞いた。先ほど話に出た財政調整基金については、新潟市や長岡市、県では年々減少しており大変な状況との話である。歳入総額のグラフでは自主財源が約 45 パーセント程度であり、不足しているとはいっても財政調整基金で賄える金額ではなく、地方交付金や国や県からの支出に頼っている方が多いように思える。市の財政が良く分からない立場からしたら、地域活動支援事業等もいつまで継続してもらえるのかと考えてしまう。地域にとっては地域活性化の柱になっている大切な事業であるため、将来を考えると心配になってしまう。

【行政改革推進課 大瀧課長】

おっしゃるとおりの部分もある。しかし予算が足りないからといって市民に危機感を煽^{あお}ることはない。一般家庭でいうと収入が減った場合、家族で考えて工夫できる部分を見直し、例えば、車の更新を先延ばしするとか、後々の多額の出費を行う場合、計画的に貯金を始めるといったことと同様である。行政でも先を見据え、現在の様な取り組みを行っており、全てが暗い将来ということではない。状況によっては市民からの協力や理解を得て、事業等を先延ばしにすることもあるかもしれないが、行政としては暗い未来のみにならないように、市民と共に協議しながら進めて行きたいと考えている。

【飯野会長】

以上で次第3 議題「(1) 第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について」を終了する。

次に次第3 議題「(2) 平成31年度のスケジュールについて」に入る。事務局に説明を求める。

【田中主事】

- ・資料3、資料4、地域活動支援事業の提案状況について説明

【飯野会長】

採択決定までのスケジュールについては既に協議し、決定した日程であるが、改めて日程の確認を行う。

【青木副会長】

第2回地域協議会にヒアリングを予定しているが、参加できない提案者が2組いると聞いている。そのため日程の変更をしたいと考えている。

【飯野会長】

ヒアリングに参加できない提案者がおり、また青木副会長も出席できないとのことである。そのため日程の変更を行うかについて意見を求める。

【横川委員】

日程を変更したことによって、他の委員の都合が合わなくなるといった状況がなければ日程を変更することは問題ないと思う。

【飯野会長】

5月14日を翌日の15日に変更した場合、各自の都合はどうか。

【飯野正美委員】

特に問題ない。

【横川委員】

出来る限り都合をつけて出席すると思うが、提案者の都合は分からない。

【飯野会長】

提案者にはヒアリングの日程は伝えてあるのか。

【田中主事】

提案書を受け付けた際にヒアリングの日程を案内している。ただ、締め切り後にヒアリングの時間表を組み、改めて周知する機会があるため、日程の変更を伝えることは可能である。また、日程が変更になった場合は、提案済みの団体には可能な限り、事務局から変更を伝えたいと考えている。

【飯野会長】

特に支障がなければ、翌日の5月15日に変更したいと考えている。

(よしの声)

では第2回地域協議会は5月15日に変更する。

他に意見はあるか。

【横川委員】

現在10件の提案があり提案額の総額が174万円との話であったが、今後の見通しとしてはどの様な感じなのか。

【田中主事】

例年、提案をいただいている「高士地区雪まつり実行委員会」や「高士地区振興協議会」、「だんとうの大杉保存会」から提案があると思われる。これらの全ての提案があり、例年どおりの金額の場合、総額で約490万円程度と考えている。

【飯野会長】

では、ヒアリングの日程を変更し、他は予定通りとして良いか。

(よしの声)

以上で「①地域活動支援事業 採択決定までのスケジュール」を終了する。

次に、資料4の年間スケジュール案に入る。これについて意見を求める。

(発言なし)

前期の協議会委員は、先進地視察を実施していた。今期の協議会委員は1度も視察を実施していないが、任期最後の今年度に視察を行うべきかについて考えている。た

だ前期の協議会委員は比較的年齢層が高く、有職者が少ないため、平日の日中に視察を実施することが出来た。しかし、今期の協議会委員は有職者も多く、前期と同様に平日の日中で視察を実施することは難しいと考えている。

【飯野 正美委員】

先進地視察には興味があるため、実施を決定してしまえば、各自日程を合わせることは可能であると思う。

【横川委員】

過去に色々な先進地の施設に視察を行っているが、「良い施設だった」の話のみで終わってしまうことが多く、視察を実施してその後に活かされたことはないように思う。それであれば、高土区内で様々な人から不満や意見等、話を聞いた方が良いと考える。しかし、視察自体に全く意味がないとは思っていない。

【飯野会長】

実際に視察を行い、その結果をすぐに高土区で活かすことは、どこの区であっても無理であると思っている。ただ協議会委員として見識を高める・視野を広げるという部分では、意味があることだと考えている。全く同じことや同じものを持ってきて、すぐに実践できることはない。まずは、あることすら知らないことを知ることも良いと考えている。しかし、必ずしも視察を行わなければならないということではない。

【横川委員】

個人の見識を高めることは良いと思うが、学んで来ても実践しようといない限りは、実施する必要もないと思っている。自分は色々な場所に出向き、色々な人の話を聞くことがあるが、色々な形で人に伝え、区内で実践もしている。

【飯野会長】

今ほど自分が話した内容は、資料に記載されたスケジュールにはないため、何が何でもということではない。

【横山委員】

以前から話が出ていた講師を呼ぶ件について、どの程度話が進んでいるのか事務局に説明を求める。

【田中主事】

講師の選定については、昨年度の12月に担当課から「地域おこし協力隊」の説明を受け、その後、三郷区地域協議会との意見交換を実施した。現在、自主的審議の進捗

状況としては、説明や意見を聞くことで止まっており、これまでの話を参考に、今後何をして行くのかが決まっていない。参考として話を聞くことも良いが、実際に何をするのかを決めてから、講師を呼んだ方が具体的な話を聞くことが出来ると考えている。また、具体的なことが決まっていなければ、講師も大まかな内容しか話せない様に思う。まずは方向性を決めなければ講師の選定は難しいと考えている。

【横山委員】

今期の協議会委員は3年目が終わり4年目に入った。自分は2期目である。前期は有職であったため1度も視察には行けていない。須坂市では若者が先進的なことでまちづくりを実施しているとのことで、興味があったが視察に行くことは出来なかった。具体的に落とし込める様な内容が、今期にあれば良かったと思っている。しかし前期から思っていたが、地域活動支援事業があるため、どうしても自主的審議が進まないのが現状である。具体的なことを決めても、4年間ではなかなか進まない。それであれば、講師を呼びアイデアを貰うことも良いと考えている。高士区の場合、どの路線で進めて行けば良いのかが分からず、長年迷走している。どこを目指すかの方向性を知る方法として、講師を呼んでも良いと思う。このままでは、時間ばかりが過ぎてしまい次に進めない。講師を呼ぶことだけが良いということではないが、起爆剂的なものや具体的なアイデアの捻出の部分での刺激になると考えている。

【飯野会長】

事務局の説明の通り、講師を呼ぶにしても何を聞きたいのか自体を自分たちが決められていない。地域おこし協力隊については、どのような活動であるのか、どうすれば呼べるのか、呼ぶための条件は何かについて話を聞くことが出来た。実際に、何を聞きたいのかが決まっていない状態で講師を呼ぶにしても、どの様な講師を選定すれば良いのか分からない。まずは自分たちが何をしたいのかを決めなければならないと思う。

【横山委員】

高士区として何をしたいのかが決まらないため、きっかけになれば良いと思っている。以前に自分が良いと思った人物に講師の提案をしたが予算に合わず断念した。その人は中山間地を中心に実際に活動している人物である。そのような人の話を聞くことが出来れば、考えることが出来るため今後の時間短縮になると考えている。同様の人物が他にいるのであれば、講師として呼び話を聞くことでアイデアを投げられる

と思う。

【田中主事】

講師としても実際にどのような話が聞きたいのかが分からないと、どのような話を
して良いのか困ると思う。また、現時点では、どのような講師が呼べるかも分からな
いため、事務局で予算を考慮しながら講師のリストを作成し、地域協議会に提案した
いと思う。まずはどのような講師がおり、どのような話をしてもらえるのかが分からな
ければ方向性を決めることも難しいと考える。

【横山委員】

逆に協議会委員がどのような話を聞きたいのかを考え事務局に提案し、講師を探し
てはどうか。

【田中主事】

そのような提案があれば探しやすい。

【横川委員】

田中主事の言うとおりに、方向性が見えているのであれば、ずいぶん前からもっと違
った段階で話が進んでいたと思う。お互いに方向性が見えていないために話が進まな
いのであると思うため、懇親の席での話の方が様々な話が出るのかもしれない。協議
会のような場で協議していても、なかなか良い発想は出ずに頭も回らないと思う。

【飯野正美委員】

確かにそうである。任期4年目を迎え、過去の3年間で積み上げてきたものがある
ため、そこに絞って話を進めて行く方が良いと思う。このままでは時間の無駄ばかり
になってしまう様に思う。

【飯野会長】

自分たちの任期は4年目であるが、高土区地域協議会委員としては9年が経過して
おり今年度は10年目になる。

結局堂々巡りで、話が行ったり来たりしており時間ばかりが経過しているように思
う。結果が出ているものとしては地域活動支援事業のみであり、これについては确实
に結果が出ていると言える。例として、高土地区雪まつり実行委員会の高土ルミネは
成果が出ている。高土区の1番の問題は人口減少であるが、色々なことを実行しても
なかなか方向性が定まらない。

【田中主事】

協議会委員からもどのような話が聞きたいのか、また、この人はこのような話をしてくれるといった提案があれば助かる。まずは材料を揃えて協議をする機会を作ることとも良いと考える。

【横山委員】

予算はいくらなのか。

【田中主事】

市の予算としては、2万円を計上している。

【横川委員】

予算を考えると、2万円のレベルの講師しか呼べないということになる。

【田中主事】

予算は、大学の教授等の専門家を想定している。

【横山委員】

逆に民間の人は無理というになる。

【田中主事】

民間のコンサルタントとなると、更に予算はかかってしまうため、難しい。

【飯野会長】

事務局より講師のリストを作成してもらい、協議会にて選定していく形になると思う。

【田中主事】

5月から6月は地域活動支援事業の審査があるため、7月以降の協議会でリストを配布し、講師との日程を調整すると秋頃の研修になる。

【飯野会長】

事務局の提案として良いか。

(よしの声)

自主的審議の中で講師を呼ぶこととし、講師の選定については事務局作成のリストを基に検討することとする。

他に意見等はあるか。

(発言なし)

以上で次第3 議題「(2) 平成31年度のスケジュールについて」を終了する。

次に次第4「その他」の「次回の開催日」に入る。

- ・ 次回の協議会：5月15日（水） 午後6時から 高士地区公民館 中会議室
- ・ 内容：ヒアリング

その他、事務局より何かあるか。

【田中主事】

特にない。

【青木副会長】

- ・ 閉会の挨拶

【飯野会長】

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 中部まちづくりセンター

TEL：025-526-1690

E-mail：chubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。